

住民の皆様から募集した「学校・保育園のあり方」に関するご意見一覧
募集期間 令和8年8月6日(木曜日) から 令和8年9月10日(木曜日)
意見数 70件

	地区	年代	学校・保育園のあり方についてのご意見・ご提案
70	富士見区	20代	保小連携はとても良い案だと思いました。移住してきて3年ほどになりますが、田舎ならではの地域内の繋がりはよく感じられています。その繋がりを小さいうちから教育現場でも感じられるのは、子どもたちにとっても良い影響を与えるのではと思いました。
69	富原	40代	富士見町の広さを考えると、なるべく歩いて通うことも考えて案Dが理想かと考えます。国からの補助金を得ながら、施設の数も削減でき、維持費も削減できるのではないかと思います。 案Eも3k以上の場所にはスクールバスが出るなどの対応が有れば良いと思います。 いずれにしても、現時点で子供の数が少なくなり、今後も少ない数で続けるのがわかっているのであれば、早急に決定し進めていただけると嬉しいです。その方が先生の確保、維持管理費も削減できるのかと思います。
68	葛窪	50代	基本的な考え方として子どもは未来の宝です。子どもたちの居場所が地域からなくなることは何を意味するのかわかりますか？ 予算とか効率とか全市民平等とか机上の空論で今までと同じ政策をしていたら富士見、日本は滅びます。今一度、最重要課題が子どもたちの居場所である学校保育園であることを意識して予算を当てた方が良いでしょう。長期的に子育てしやすい町という評判が全国から人を呼び集めると思う。絶対これ以上減らしてはいけないのではないかと。各小学校のエリア毎に自治体やエリアを盛り上げるような独立行動思考も必要であると感じます。自治体にお任せ丸投げは何も変わらない。境小学校エリアであれば境村の復活のようなより小さなまとまりのある地区運営を行うなど大きな変換も必要ではないか。子どもが集まる場所に各世代が集い、特に高齢者との関わり合いがより豊かな地域に富士見町にしていける。昔の日本がそうだったように難しく考えずにシンプルに今までの日本、忘れられてしまった日本のありかたに大きなヒントがあると思います。子どもへは未来への投資です。そこから老人も豊かになります
67	田端	40代	いちばん低予算なやり方で、改修しつつ、学校を残し、と同時に地域の災害時避難所等も確保しつつできたら良いと思います。

66	田端	60代	富士見町の人口減少・少子高齢化対策として、小学校3校は維持していただきたいと思います。境地区の自然豊かな環境に魅力を感じて、移住して来た方の話をよく聞きます。中には、移住前に境小を見に行き、通学路の下見までして、「ぜひここに通わせたい」と希望して移住したという若家族さんもいます。田端区では、子どもさんの居る家庭は積極的に正区民となり、活発に子ども会の活動が行われています。地域の大人との関係も良好で、移住者に対してウエルカムな雰囲気があります。移住促進・人口増対策として、境小学校の存在はアドバンテージになっていると感じています。また、近所では、子ども達が卒業後も戻ってきているケースも多々見られます。やはり、自然が好き、都会には住みたくない、とのこと。そして、それを周囲の大人が歓迎し、暖かく支援している様子も見られます。移住者を増やすだけでなく、卒業後も戻ってきて定着してくれていると感じます。境小学校は、富士見町の宝であり、将来への希望であると感じています。 本郷小学校、富士見小学校もそれぞれ魅力があると思います。大きな学校から小規模校まで、教育環境を選択できることも良いと思います。 保育園については、小学校と併設するメリットよりも、駐車場が広く保護者が送迎しやすい場所がメリットが大きいように感じます。境保育園は、境小と同様に存続していただきたいですが、アプローチの道が狭く、慣例的に一方通行にしています。境小の近くであれば、広い土地はあり、文教地区として大切に環境を守っていくことも一法かと思います。隣に、特別養護老人ホーム「恋月荘」があり、交流が行われれば尚よいかと思います。子どもから老人まで、安心して暮らせる町づくりになると思います。 富士見保育園の駐車場は、冬にぬかるんで困るので舗装して欲しいという要望が以前からありましたが、そのままのようです。また、駐車場が狭いので、わざわざ西山保育園に通わせている人もいると聞いています。やはり小学校への併設にこだわらず、保護者の車の動線を考えた立地と設計が望ましいように感じます。 落合保育園については、あまり事情は知りませんので、意見を申し上げるのは控えたいと思います。落合小が統廃合になり、落合保育園まで統廃合が検討されているとしたら、その地域の実情や地域の方の意見によく耳を傾けていただきたいです。富士見町は、もとは富士見村・落合村・本郷村・境村が合併してできており、それぞれの地域の文化が色濃く残っていると感じます。町の財政が許すなら、5園存続が望ましいと思いますが、現実的には3校3園にならざるを得ないのかもしれませんが。 教育と福祉には、十分な予算を割いていただきたいと思います。住みやすい町づくりが、人口が増えて発展していくことにつながると思います。町の貯金が5年後に無くなる、お金がないと聞いていますが、町の予算については節約の余地があると感じています。町内の土木工事について、当初の予算の3倍以上の金額で議会で可決されたのを見たことがあります。工事の規模から考えたら、異常な高額でした。他の工事のことは知りませんが、公共工事にお金を払いすぎではなのではないかと感じました。また、お金はあるところにはある、と感じています。広原財産区は11の区からなる大きな財産区ですが、財政調整基金(地方自治体の貯金のようなもの)が富士見町の数倍というお金持ちです。全国的にも、これほどお金持ちの財産区は珍しく、町より財産区がお金持ちというのもおかしい気がします。富士見町の財政は、独特な面があり、工夫の余地があると思われます。今年のパノラマスキー場の Gondola 無料キャンペーンの支援の仕方は、以前より良くなったと感じます。移住促進につながる生きたお金の使い方になったと感じます。 話がそれましたが、小学校・保育園の耐震化・長寿命化は、ぜひ国の補助金などを活用して適期に行っていただきたいです。今回のように、意見を言う機会を与えてくださって、感謝申し上げます。
65	信濃境	30代	富士見町に移住してきてよかったと思う点であげられるのは、まず自然が豊かなところです。 この自然に恵まれた環境の中で子育てができることはとても魅力的だと思います。 保育幼児教育の場として、もりのいえぼっちは自然体験ができ、とても良いと思います。
64	乙事	40代	この先の少子化は免れないが、逆に好機と捉え、小規模特認校なのか一体化、複合化、によって異年齢交流、更には校舎は地域の避難所であり住民の集う場とし、幼少期より多様な人同士の交流を常とし地域への関わりから、誰しものが支え合って生きていると育てば、自ずと将来の担い手不足、限られた住民による責務の不平等も解消するのでは。

63	小六	40代	境保育園、境小学校に子供を通わせています。 今の各施設の運営にとっても満足しており、先生方、関係されてくださる方へ大変感謝しています。 保育園では、地域の方が食材を運んでくださったり、一緒に遊んでくれ、子供も〇〇さんが来てくれたんだよ。と楽しそうに話してくれます。縦割り保育では、上下の付き合い方も学べ、幼いながら他人に対して優しい心を育んでくれているような気がします。 保育園と小学校の繋がりも強化された様に思います。 年長時に境小を何度も訪れ、1年生との交流があり、自然と保育園→小学生になる事を受け入れており、環境の変化に対しての心配を減らす事ができます。 小学校になってからも姉妹学年で縦の繋がりがあり、また、地域の方とも様々な活動と一緒にを行う機会が多く、異年齢との付き合い方を学ぶことが出来ている様に思います。 地域や地域の方との繋がりは少人数学校ならではの、と感じています。 ただ付き合い方が難しい子も中にはおり、少人数学校での良さと難しさを感じる事もあります。 中学生のお子さんを持つ親御さんからは少人数で慣れた環境で、中学生生活で多数の中に入ることに躓いてしまう子もいる、と聞きました。あるいは、中学でより気の合う友達を見つけて小学生時代には友達に気を使って生活してきたのか、と気づく事もある、とも聞きました。 自分の子がどの様に中学に上がるのか、今はまだ分かりませんが、保育園→小学校との交流の様に、上級生になったら小学校→中学校との交流を強くしていただけると親としては有り難いです。 今上がっている案A～Eの中では案Dが考えに近いですが、本郷・境地区はそれぞれ複合化、富士見小に於いては西山保育園、富士見保育園は当面そのまま、落合保育園は境地区へ学区の変更の可能性は？と思いました。 学区割を変える可能性や、スクールバス運行についても併せて検討いただけると幅広く考えられるかと思いました。
62	立沢	40代	案C
61	高森区	60代	私達大人が、【子ども達ひとりひとりのいのちの尊厳】から考える事が大切と存じます。 子ども達は、私達のかけがえのない宝です。地域で見守り地域の人々が良い関わりをもつ事で、子ども達も富士見町に住みたい・居たいと望むのではないのでしょうか？ 保育園に関して申し上げます、『信州やまほいく』の認定を頂ける素晴らしい環境・保育であり、その中で日々、子ども達と保育士の関りが重要であり、保育士に余裕が無ければ良い保育は出来ません。現在も保育士の方々は日々、非常に多忙と存じます。その中で、子ども達の安全に最大限の配慮し保育されておられると存じます。故に、保育園統合せず現在の保育体制が望ましいと思われます。(子ども達の安全を考えた時、一人の保育士が多くの子どもを保育する事は望ましく御座いません。) 小学校も同様で、小人数は一人一人と丁寧に向き合い関りを持てます。又、例えば境小学校は、押立相撲などの特色があります。統合では無く各校、其々の特色を今後も活かし、更なる他にない特色ある学校にするなど【教育環境の整備】が大切と考えます。 小学校は3校、長寿命化改修を行い、存続させる事が望ましいと存じます。 保育園は、小学校との複合化も考えられますが、町の他予算の使い方を検討し、出来る限り、5園存続可能な方法が有る事が望ましくご検討頂ければ幸いと存じます。 移住者の目線で考えた時、富士町の魅力は豊かな自然環境にあると存じます。尚且つ、子どもの教育環境は重要な要素です。良い教育機関が無ければ移住先の候補になりません。 富士見町の人口減をくい止める為に、移住者・移住世帯の増加が望ましく、移住者の方々は、子どもの教育環境を重要視なさっておられます故に、既に、移住され子育て中の方にすれば、小学校・保育園の統廃合は、移住前の予定と違う事と存じます。 全国的にみても、良い環境・良い教育機関のある所に子育て世代の人口増が見られ、小学校統合と保育園についても、教育機関の減少は、人口減に繋がると存じます。 子ども達、そして町の未来の明るい方向へと願います。何卒宜しくお願い申し上げます。

60	境地区高森	70代	住民の教育参画、地域自治拠点とすると、現在の小学校区の範囲が最適ではないか。規模についての課題は、特認校モデルの活用、ITの活用、教員交流などの工夫で対応できるのでは。負担も小さいので 案Dを支持します。
59	境地区	40代	就学先学校の所在を確認して移住してくる人が大半のため、移住者数の確保、人工流出を防ぐことを考慮し、かつ1番少額で済む3小学校3保育園(3校長寿命化+3園複合化)がいいと思います。
58	田端区	50代	境小を残して、こちらの自然豊かな環境を生かしたらよいのと思います。
57	富士見	40代	町営の保育園のあり方が検討されていく中で、ぽっちは町としてどのような立ち位置になっていくのでしょうか。 ぽっちは、富士見町への移住者にとって、近隣への移住者にとって、移住環境での子育てを含む生活全般での拠り所であることは間違いありません。富士見町にぽっちがあったから移住した、移住した先にぽっちがあってよかったという人が私自身を含めたくさんいます。また、その移住者が富士見町へまたらす貢献度も高いと思います。一方で、ぽっちの保育費などは、町営の保育園とは異なり、仕事をしていない家庭は有料であり、無償化の対象になっていません。回覧板で回ってくる町の新聞？にぽっちが掲載されることは、ほぼありません。町としては、町の一部として認めていないのかな、町の人達には認識されていない存在なんだと感じずにいられません。そのあたりの検討についても、町として、町営の保育園や小学校の在り方とともに、ぽっちをどのように位置づけていくかも、同時に検討していただきたいです。
56	境	40代	なくすのではなく、それぞれいいところを見つけ、選択制にしたらいいと思います。 生徒、先生、保護者での清掃、で美化も成り立つし、維持してると思います。 子供達、地域のみなさんで維持できる、それこそが富士見町だと思います。 避難所だけで使う事になれば、老朽化も進み、結局取り壊したり、その地区の元気もなくなると思います。子供の元気は偉大です。 南中みたいに鏡だらけにもなって欲しくもないです。 境に保育園、学校があるからこそ境が元気なんだと思います。

55	高森地区	40代	私は現在、小学生の子どもを持つ保護者として、小中学校を含め、できる限り現在の学校を地域に残す方向で検討していただきたいと考えています。今回示された案の中では、小学校3校を存続させるC案を支持します。 少子化、施設の老朽化、財政負担について考えなければならないことは十分理解しています。ですが、学校のあり方は、現在の児童・生徒数や施設維持費だけではなく、今後も富士見町に子育て世帯が住み続けたいと思えるか、新たな子育て世帯に移住先として選んでもらえるかという、町の将来の人口政策と一体で考える必要があると思います。 富士見町は人口目標を上方修正し、移住・定住を含めた施策を進めています。その一方で、小中学校を一か所に集約することによって地域から学校がなくなり、子どもの通学距離や時間が大幅に増えるのであれば、子育て世帯にとってその地域に住む魅力は低下する可能性を心配します。 学校の統廃合 → 子育て世帯に選ばれにくい地域が生まれる → 子どもや若い世代がさらに減少する → 地域の人口減少が加速するという循環にならないかを、統廃合を決定する前に十分検証していただきたいです。 むしろ、町内の各地域に学校が存在することを単なる「維持コスト」と考えるのではなく、子育て世帯の定住・移住を支え、地域を維持するための社会インフラへの投資として評価する視点も必要だと思います。 また、小規模校には、子ども一人ひとりに目が届きやすい、異学年との関係が生まれやすい、地域との距離が近い、富士見町の豊かな自然や地域資源を教育に活用しやすい、といった特色があります。 児童・生徒数が少ないことを単純に教育上の弱点と捉えるのではなく、ICT、学校間の合同授業や交流、小中連携などを活用し、「小規模だからこそできる教育」を富士見町の教育の特色として育てるという選択肢も検討していただきたいです。 学校は教育施設であると同時に、地域の交流、防災、世代間交流などを支える地域拠点でもあります。特に面積の広い富士見町において、小中学校を一か所へ集約することが、町全体の持続可能性という観点から本当に最善なのかは、慎重に検討する必要があると思います。 財政面についても、今回提示されている建設・改修費だけではなく、統廃合後に長期的に必要なスクールバス等の通学支援、車両更新、運転手確保、施設管理、廃校施設の維持・解体などを含めた20～30年間のライフサイクルコストを各案について示した上で比較していただきたいです。 さらに、学校統廃合によって各地域への子育て世帯の転入・定住にどのような影響があるのかについても、町の人口政策との整合性を含めて検証していただきたいです。 学校は一度なくしてしまえば、人口が回復しても簡単には戻すことができません。 20年後、30年後の富士見町を考えたとき、「子どもが減ったから学校を減らした町」ではなく、「子どもが少ない時代だからこそ、一人ひとりの子どもと地域を大切に、子育て世帯から選ばれる町」を目指してほしいと思います。 現在の児童・生徒だけでなく、これから富士見町で育つ子どもたち、そして将来富士見町に住む場所として選ぶ家族のためにも、小中学校を単なる施設としてではなく、町の将来を支える重要な社会基盤として位置づけ、地域に学校を残すことを基本とした検討を希望します。
54	境(葛窪)	70代	D案が最善と思います。教育環境に限らず、境ほか各方面に重大事案が発生した際、集合や活動の拠点として将来的にもその存続意義は継続、若しくは今以上に高まるものと考えますので！
53	乙事	30代	本郷小でお世話になっています。登下校が少し心配でボランティアの登録はしたんですが下の子もいるためあまり街頭に立てていないので、何か策があればいいなと感じています。 他は先生方にもよくしていただきとても充実した学校生活を送れているんじゃないかなと思います。 まだ先にはなりますが中学校になったらスクールバスが出たらいいなと思っています。
52	葛窪	70代	統合するとたぶん富士見になってしまい、中心から離れた地区はますます過疎になってしまう。統合すると遠い地区はスクールバス等での通学になる。現状の歩く通学は色々と学ぶ事が多く長い人生にとって、役立つ事がたくさんあると思う。自分が後期高齢者になった今思うことが多々あります。もしバスで通学していたら、味気ない学校生活になったかなと思う。

51	境	40代	一方で、家族同様に安全の中で過ごした後に大規模な中学校生活に馴染めず不登校になるケースが多いと聞くと、そこは現状でもフォローアップが必要なのではないか？保育園→小学校へ上がる時に、すすすく、という療育のような取り組みに参加して大変効果的だった。必要と感じる親子に対し、そこは有料でも、なんらかの手を差し伸べる体制が作れたらスムーズかもしれない。知らない人達を前に、ひと言で良い、声をかけることができれば変わっていく。日頃安心安全の中で暮らしているが故に、そのひと言が出せない人、お子さんも多いようにお見受けするが、そこは慣れるしかない。どの子も人も、その人にしかない素晴らしい人柄なのが、富士見町の魅力。サポートが必要。 が、そもそも小学校、中学校自体が現状維持ではなく、こどもの個性や自由意志を尊重した柔軟な体制に変わっていたら、その問題そのものが無くなっていく可能性もある。 教育改革と共に町が豊かになっていく方法を模索したい。アイデアも持ち合わせず、思いついたことを勝手に言っているだけで実現可能性が低いことも承知で発言している。でもゼロベースで、本当にどうなったら最高なのか？を予算を外して一度考えてみる時なのではないだろうか？ マス釣り、釣りからの捌いてバーベキュー。押し立て相撲、お花見給食。 失くすのは簡単だが、無くなれば取り戻すことは簡単ではない。自然相手のスケールの大き過ぎる遊びを知っているこの地域の人たちは、日本の宝だと思う。この豊かさは、唯一無二。目に見えにくいけど確かにある豊かさを、次の世代に手渡したい。 おそらくそれは、都市の人たちが喉から手が出るくらい欲しても、得難いものだと思う。幼少期の本気の遊びこそ、本来の学びで、それを理解している人たちが移住者として来ている。また、統合一校になれば、本郷・境地区の建物・土地単価が下がる可能性の高さも、町として言及して欲しい。この地域はブランドになる力があるのに、それを潰して資産価値を下げてはいけない。 小規模特任校で外部からも通いたい子供が増えるような魅力ある学校になれば、賃貸したい人も増えて、空き家問題の解消にも繋がるはず。 人に貸すためには整理しなければならない。人間関係も、物も。物を捨てるには、勉強しなければならないことを、町として取り組んで欲しい。無料では私たち世代でさえ捨てられない。もっと上の方は捨てられなくて当たり前だ。立ち止まり、時間という資産を投資して学ばなければ捨てられない。物理的なものが変化して景色が変わり、更にはお金も流れれば、町全体が活気付く。境・本郷小学校を捨てるなんて、町として勿体なさ過ぎる。活かし方を探したい。 仕事で忙しいなどの理由で、学校協議に関わって来なかった人たちが沢山いるはず。学校問題と自分達の資産の問題は繋がっている。どの人も自分ごととして、これから考えて欲しい。町としてもそのように提案して欲しい。一人ひとりのアイデアが必要。
51	境	40代	境小を小規模特任校にし、保育園と統合する。地元産または国産木材をふんだんに使った心地良い教室空間と調理室をつくり、地元野菜の販売所も設ける。地域の方々がこんな素晴らしい場所で働けることを喜びに思うような学校を作る。親は学校への送迎その他、行事の参加など忙しいが、野菜を買って帰れたり、給食室で販売するお惣菜やレシピを持ち帰れたり、家事の手助けになる取り組みがあれば、今のような親の負担も減る。教職の方だけでなく、児童クラブ指導員、用務員さん以外にもアイデアをつのり、たくさん雇用を生む場所にする。富士見駅前のウツリスムステーションや役場派出所、空き家相談所、賃貸管理事務所を境駅前や小学校敷地内に設ける。学校手前部分を地域に開放し、奥を学校保育施設とし、地域の人の仕事場や憩いの場所を作る。障害者雇用のカフェなどがあっても良い。また学校を放課後開放して、社会人向けのスクールにするなど。 とにかく学校全体敷地を利用して、雇用を生む場所にデザインし直す。 境小、富士見小学校両方に通う経験があるがまったく別の学校。南原山と境地区はまるで別の地域。山梨寄りか茅野、原村寄りか、文化圏も買い物エリアも異なる。多様性があり面積が広いことが富士見町の魅力。富士見中心に学校その他の機能を集約させると、一見メリットが大きいのに見えるが、実質は本郷・境の魅力が衰え、町として失うものが大き過ぎる。移住者は、世界中どこに住んでも良い中で、境小・本郷の自然と人の営みが融合した美しく特別な雰囲気惹かれ選んだ人も多い。境小の魅力を最も知らないのは、富士見中心に住んでいる人たちだと感じる。お店などが無い集落は、土地探し、友人親戚宅など名目がなければ入って行きにくい。富士見小学区内にも美しい場所は多いが、本郷・境学区エリアの魅力は大きい。 統合して一校になると仮定したとき、バス通学は楽しいものだと想像できるが、幼少期に歩かないデメリットの大きさについては考えて欲しい。助産院で出産しているが、元気になると子どもを産む人は、幼い頃たくさん歩いている人が多いと聞いたことが、子ども達を40分以上かけても歩かせる決意につながっている。実際それができていれば、複数の習い事の送迎に親が懸命になる必要がないほど体力がつくと実感しているし、自然に育まれ友だちと歩くこと以上に、幼少期の感性を育むものはないのではないかと考えている。現時点で車送迎が増え過ぎていることは既に問題で、集団登校にもっと力を入れて全国にアピールすべき。本当に勿体ない。スポ少にかけられる労力の半分を登下校に使えないのか？スポ少に通う親の負担が大き過ぎると外から見ていて感じる。

50	田端	10代	境小出身の中学2年生です。 豊かな自然がこれからもずっとある富士見町がいいです。 境小も存続して下さい。
49	高森	30代	小学校は、徒歩で通えるように3校残してほしい。近所を小学生が歩いて登下校しているのをみて、いい地域だなと思えるし、移住を考える上での判断材料にもなる。
48	瀬沢新田	40代	D案がよい 理由① 経済的であること 理由② 町内に3つの小学校を維持できることで家庭の負担や防災拠点としての機能を考えても良い 理由③ 人口減の中、まばらにしかいない環境ですぐすよりも年齢の縦割りが幅広くなることで、子供達もこれまでと違った成長を期待できる。 理由④ 学校・保育園運営の違いはもちろんあるものの、先生たちも協力して実施できることもあると思われ、イノベーションが生まれると思う 理由⑤ 新しい柔軟な発想により若い世代の移住を促進できる
47	立沢	30代	できる限り残してほしい
46	境	30代	全ての保育園、小学校を残す事が最善だとは思いません。財源を保ち町を存続させていく事が、富士見町で育った子供達が戻って来たいと思えると思います。財源が不足して個人や企業の税負担が増えたり、水道や公共施設の制限がでたり、役場職員の削減など考えられる不安はたくさんあります。不安を減らし、町を存続させる為にも将来の負担が少ない案にする事がいいと思います。小学校を一つにする、保育園と小学校の複合化などが費用を抑えられていていいと思います。
45	富里	30代	現在子供がおうち園かめさんに通っています。 未満児を専門でみてくださっていること、ひとりひとりに目が行き届いた保育をしてくださっていること、子供がのびのび育てることに本当に感謝しています。せめて未満児の間だけでも一緒にいてあげられない分、一人一人を見てほしいというニーズにとってもよく沿って子供達を心から大事に一緒に育てていただきとてもありがたいです。保育園、小学校共にある程度の統合は必要だと感じていますが、こちらは可能な限りかめさんの施設を残してもらえたらありがたいです。 生まれた子供が私たちの頃と比べてあまりにも少ないので少子化とコスト面から小学校は3校無くても良いかと思っています。町として持続的に学校を維持していくために統合するならして、設備を整える方が現実的では無いかと思います。

44	田端	50代	子供たちが大人の時間に合わせるばかりの日常ではなく子供時代に子供の時間を過ごせる事を保障できる富士見町を目指したいです。その為には学校や保育園の先生をはじめ周りの大人達の学びの時間、教育改革の意識が必要だと思います。私も含め、効率の良さや便利さなどに目が向いて子供のステキな芽を摘んでしまっているのではと感じています。 大人も子供も、その子(人)らしさ・個性を認める、そしてその個性を活かす&補い合うことが出来たら良いなと思います。 そして、個性を活かす&補い合うためのコーディネートが出来る人材を育てる環境があれば強く願います！ みんなで黒板に向かって同じことをするばかりでは周りとの違いばかり気にして間違えることに臆病になっているように我が家の娘を見ていると感じます。 また、各地区で積み重ねてきた目に見えない財産(景観、行事、伝承してきた技術などなど)を今後も引継いでいきたい、いけるように古くからいる方も新しく移り住んで来られた方も隔たりなく交流していきたいと願います。 防災拠点という位置づけだけでなく、地域のコミュニティの為に学校・保育園の存在は大きいなと思います。 最近、某有名大学ご出身のご夫婦に出会いましたが、旦那さまは小さい時から当たり前のように勉強する毎日で、点数をとる・受験に合格するテクニックばかりを学んでいて、子供時代の大事なことを忘れてる気がするとおっしゃっていて、また田舎で育ったという奥さまは子育ては都会でするには厳しいと感じ移住してこれました(富士見町ではありませんが)。 そのご夫婦のモヤモヤはこの富士見町で解消できるような気が私はします。 今出ている案の中ではD案の複合化というのが一番近いのかなと思いますが、複合化の中には大人の学びの場も必要だと思っています。
43	田端	40代	ただ建物を残すかどうかの議論だけでなく、発達特性への専門性を高めたり、探究型学習を取り入れるなど、富士見で育った若者が安心してポジティブな選択肢として子育てしに帰って来れるような、次世代のモデル校作りを検討してほしい。
42	池袋	40代	8月の広報を読んで、5つの選択肢のうち、案Dの 3小学校3園複合化が良い案だと思いました。 今娘が境保育園に通っていますが、毎日の送迎の面からなるべく保育園は家の近くが良いと感じています。小学校も同じだと思います。 また、学校と園が同じ場所になれば、兄弟がいる家庭も助かると思います。 移住者が増えていることもあり、選択肢は多い方が良いと思うので、改修などをして長く使えるならば、できるだけ既存の学校、園を残せたらいいと思います。 現在の保育園に通っている限りでは、少人数のデメリットは感じていません。
41	立沢	40代	自然の中だからこその保育、教育に魅力を感じています。富士見の街中に統合してしまえばその魅力がなくなってしまうのが不安です。その魅力を発信すれば子育て世代の人口増にもつながると思います。
40	高森	60代	d案を支持します。こどもたちが歩いて通学し地域のなかで育って行く関係が必要だと考えます。また今後の町の発展を考えると移住者受け入れが必要です。移住者が多い境地区の子育て環境を整えることは移住者受け入れの大きな要因と考えます

39	富士見町境	70代	○基本方針 教育を児童数の減少(数字合わせ)のみで統廃合に結びつけることには反対です。 むしろ統廃合は最後の最後にすべきで富士見町は小規模校・園の良さにこそ目を向け一人も見落とさない教育方針を旨すべきと考えます。 ○以上を踏まえた今後の小学校と保育園施設のあり方 ?選択肢案「D」(3校3園の複合化・寿命化改修案)がベストです。 <理由> ①小規模校(園)は単なる教育現場の施設に限らず、その特色(地域密着型コミュニティSchoolや小学校・保育園行事を通じて地域文化の発信拠点にもなり得ています。 ②小学校・保育園保交流が期待できます。 境小園の場合は「恋月荘」との交流も。 ③災害時避難所機能が常時維持出来ます。 ④今後のマネジメント経費が選択肢案中でも最小(行財政改革)に抑えられます。 ⑤今後の子育て世代の移住希望(社会増)や越境通学も期待出来ます。 ⑥以上地域活性化に大いに貢献出来ます。 ⑦学校も市町村合併同様、30年後に評価すべきです。
38	境	40代	基本的には、子どもたちの生活圏や地域とのつながりが狭い範囲に保たれることが望ましいと考えているため、A案が良いと考えています。 一方で、現実的な問題として、A案を選択することが町の財政や今後の運営に大きな負担を与えるのであれば、C案・D案も十分に検討できると考えています。特に、C案・D案を選択することで生まれる財政的な余力を、教育のソフト面への投資に振り向けられるのであれば、C案・D案の優先順位はより高くなります。 現在この地域には、子どもをきっかけに大人同士や地域の人々が交流し、それが地域全体の良い雰囲気につながっていると感じます。これは、子どもや家庭が比較的近い距離に暮らしているからこそ生まれているものだと思います。 生活圏が広がり、遠方同士になるほど、こうした日常的な交流は生まれにくくなると思います。それは単に「交流の機会が減る」というだけでなく、地域そのものの空気や雰囲気にも影響すると考えています。 私自身、この地域の空気の良さは移住を決めた理由の一つでした。実際に暮らしてみても、人との距離感や地域とのつながりは、日々の生活の豊かさやウェルビーイングに大きく影響していると感じています。つながりが希薄になることは、現在暮らしている人の豊かさだけでなく、今後の移住者にとっての町の魅力にも影響すると考えます。 特に、日常的にスクールバスでの通学が前提となる地域であれば、私自身は移住先の候補から外していたと思います。同じように考える子育て世帯は一定数いると思います。学校の配置は教育の問題だけではなく、今後どの地域に人が住み、子育てをし、地域との関係を築いていくのかという、町づくりそのものに関わる問題だと思います。 その意味では、A案が理想ではあるものの、C案・D案であれば、こうした問題意識に対して工夫や対応を行う余地はあるように感じています。 同時に重要だと考えているのが、教育の「ソフト」への投資です。 学校や教育環境は町の特色をつくり、それが生活環境としての魅力となり、移住先として選ばれる理由にもなり得ます。特色は建物などのハードだけではなく、授業内容、先生、さまざまな体験、地域との関わり、子どもたちの日々の学校生活といったソフトから生まれるものだと思います。 こうしたソフトへの投資は積極的に行ってほしいです。もし、ハード面で一定の折り合いをつけることによることで、ソフトに振り向けられるのであれば、その選択をよりポジティブに捉えることができます。 反対に、ハードへの投資を抑え、ソフトにも十分な魅力をつくれないのであれば、町全体に「縮小していくしかない」「仕方がない」という諦めの空気が生まれてしまうことを懸念しています。 「景気は気から」という言葉がありますが、今回の選択も同じような影響を感じますので、前向きに捉えられる判断をしていけたらと思います。

37	鳥帽子	40代	私は、案外のように各地域の小学校と保育園を残し、複合化しながら、地域とのつながりを生かした教育・子育て環境をつくる方向に可能性を感じています。これは、学校を残すこと自体を目的とするものではありません。富士見町の自然や地域、人材、産業、文化などを教育に生かし、「富士見町だからこそできる学び」を実現するためです。 町が掲げる「教育のまち」「子育てのまち」「学び続けるまち」という理念にも共感しています。これからの子どもたちには、知識を身につけるだけでなく、自分の興味や得意を見つけ、自ら問いを持ち、考え、試行錯誤し、多様な人と関わりながら学び続ける力を育んでほしいと考えています。 その学びを実現する上で、富士見町には大きな可能性があります。八ヶ岳をはじめとする豊かな自然、農業・林業、地域の産業、歴史や文化、図書館や博物館、そしてさまざまな経験や専門性を持つ地域住民や移住者など、学校の外にも多様な学びの場と人材があります。これらを単なる「地域資源」として捉えるのではなく、子ども一人ひとりの「好き」や「得意」を起点に、本物に触れ、興味を深め、探究していくための教育資源としてつないでいくことが、富士見町ならではの教育につながるのではないのでしょうか。 例えば、自然や農業から環境や地域産業を学んだり、ものづくりから設計やプログラミングへ発展させたり、地域の課題を実際のテーマとして探究したりする。そうした学びを学校の中だけで完結させず、人・自然・仕事・施設・地域とつながりながら広げていける環境をつくることに、富士見町の強みがあると感じています。 一方で、小規模校には、専門性や教育の選択肢、人間関係の固定化、教職員の負担などの課題もあります。だからこそ、各校がすべてを抱えるのではなく、専門人材、地域人材、ICT、施設、合同授業などを町全体で共有し、小規模校の課題を補いながら教育の選択肢を広げる仕組みが必要だと考えます。富士見町では、すでにコミュニティ・スクールや町コーディネーターの配置など、地域と学校をつなぐ取り組みが進められているかと思います。こうした取り組みを今後さらに発展させ、地域の人材や自然、産業などを実際の学びにつなげていけないでしょうか。 その際には、現在の取り組みがどのように教育に生かされているのか、どのような成果や課題があるのかを検証し、必要な人材や予算、コーディネーターの役割なども含めて、持続可能な仕組みとして考えていただきたいです。 また、今回の再編を考える上では、過去の統廃合によって何が変わったのかについても検証していただきたいです。 落合小学校は、児童数の減少や複式学級への懸念などを背景に統合され、その通学区域の多くが富士見小学校へ移されました。当時の判断には一定の合理性があったと思います。一方で、その後の富士見小学校への児童集中や、地域から学校がなくなったことによる変化も生じています。 前回の統合によって、教育面・通学面・地域コミュニティ面でどのような効果や課題が生じたのかを整理し、その結果を今回の判断材料としていただきたいです。現在の児童数だけを見るのではなく、これまでの統廃合や通学区域の変更によって現在の学校配置が形成されてきた経緯も踏まえ、学区の見直しや3校間での教育資源の共有によって、地域に学校を残しながら教育環境を充実させる可能性についても比較検討していただきたいと思います。 また、移住者として子育てを考えたとき、学校までの距離や通学環境にも不安があります。この地域では、歩いて通学することを体力づくりや地域との関わりとして大切にする考え方がある一方、実際には車での送迎も日常的に行われています。 近年の夏の厳しい暑さや野生動物との遭遇、交通安全などを考えると、学校を集約することで通学距離が長くなった場合、子どもが安全に通えるのか、また保護者による送迎が増えることにならないかという点も気になります。
----	-----	-----	--

36	高森区	50代	学校・保育園の今後のあり方について 少子化や人口減少、施設の老朽化、そして将来の財政負担を考えると、現在の3小学校・5保育園をそのまま維持していくことが難しいことは理解しています。 そのため、単に「今ある施設を残してほしい」という考えではなく、これからの富士見町をどのような地域にしていくのかという視点から、学校や保育園のあり方を考えていただきたいと思います。 私は、5つの案の中では、現時点ではD案の「3小学校と3保育園を複合化し、地域の拠点として長寿命化する」という考え方に最も可能性を感じています。 その理由は、学校や保育園は単なる教育・保育施設ではなく、子どもたちが地域の中で育ち、地域住民が子どもたちを見守り、高齢者を含めた世代間の交流が生まれる、地域コミュニティの大切な拠点でもあるからです。 ただし、D案を採用する場合も、「3つの学校を残すこと」そのものを目的にするのではなく、それぞれの地域にある学校と保育園を、子育て、教育、地域交流、防災、文化活動、高齢者との交流などを含めた「地域の拠点」として再構築していただきたいと思います。 また、人口減少が続くことを前提にするのではなく、富士見町に子育て世代が住み続けたい、また新たに住みたいと思える環境をつくることも重要だと思います。学校や保育園のあり方を、住宅、仕事、交通、子育て支援などと合わせて考え、若い世代が暮らし続けられる町を目指してほしいです。 一方で、将来的に子どもの数がさらに減少した場合にも対応できるよう、最初から将来の見直しが可能な柔軟な仕組みとしておくことも必要だと思います。 そして、高齢者を単に支えられる側として捉えるのではなく、これまで培ってきた知識や経験、地域の文化や歴史を子どもたちに伝えるなど、地域の大切な担い手として活躍できる仕組みもぜひ考えていただきたいです。 今回の学校・保育園の再編を、単なる公共施設の削減や統合ではなく、「子どもがいて、若い世代が暮らし、高齢者も役割を持てる富士見町を、これからどうつくっていくか」を考える機会にしていきたいと思います。 今あるものを守ることでなくても、施設を減らすことでなくても、将来世代にとって本当に住み続けたいと思える富士見町をつくるための選択をしていただくことを願っています。
35	富士見	60代	いろいろな案が出ていること自体は良いと思うが、子どもたち、その親たち、卒業生たちの話はどこまで聞いているのでしょうか。 検討会、役場、この町のどこにも学生として廃校を経験した大人はほとんどいないと思われる中、統合や廃校を案として出している方は、自分たちが経験していないことを今の子どもに強いる訳である。大切な居場所、特別な場所を大人の都合で奪う訳である。その自覚と覚悟はどのくらいあるのか伺いたい。 もし仮に結論が廃校、統合だったとしても、大事なのは議論を尽くした、結論ありきではなく意見が聞かれた、という過程の方にあるのではないのでしょうか。 この議論はそもそも町の持続性、もっと言えば行政サービスの維持が上位目的にあると聞いている。何のための持続性かと考えると、この先の世代もこの町に住みたい人は心地よく住むことを可能にするためである。そうならば、未来世代、今の子どもたちが自然とこの町を好きになってくれることが肝要になる。未来世代の大切な居場所を無くすことになる結論を導く場合、彼ら彼女らの納得が何よりも重視されるべきではないか。そこを軽視することは本末転倒で、何のための持続性なのか。 学校統合に関する町の座談会で、教育庁、行政の方が「子どもは自分の見たものしか選べんのですよ」と発言しておられた。文脈としては、「だから、まだ形のない新しい学校について子どもの意見を聞いても仕方がない」という趣旨であったと記憶している。 結論そのものも大事だが、未来世代の納得感、議論の過程、結論ありきではない議論のあり方という観点で、この発言の妥当性は改めて捉え直される必要があるのではないか。
34	高森区	80代以上	D案に賛同します。協力します。

33	高森区	60代	小学校と保育園、それぞれ3ずつの複合施設が望ましいです。
32	境高森区	30代	財政等の関係で、各保育園や学校を残す事は難しいかと思いますが、もし学校や保育園が統合された事で、働く親の負担が増える事が目に見えています。明確な対策(例えば、スクールバスが出る、交通費負担)などがない限り、今のところは各保育園や学校を維持して欲しいと思っています。 せめて、複合施設として、各場所に 一校一園は残して欲しいです。 兄弟関係で、学校と保育園の場所が離れていればいるほど、朝も親としては大変であります。 仕事の調整も必要になってきますので、具体的な案が沢山あがれば、統合も視野に入れても良いかとは思っています。 本音今の状態を維持が1番です。
31	富士見	60代	学校統合には反対。それぞれの地域、学校に文化と歴史があり、それが富士見の魅力になっている。町になんでもかんでも集約すれば良いという話ではない。後期高齢者など、動けない町民は病院や役場の近くに來ればいい。そうでない元気な子ども、元気な家族まで集まるもんじゃありません。 移住の人も増えている。これからの町全体をどうしたいかをもっと考えたプランがほしい。お金の話で決めるのは反対。
30	富士見町乙	30代	私は30代で5人家族(妻、小学2、小学1、年中)です。 生まれが埼玉で田舎暮らしや農業が身近にある生活ではありませんでした縁がありたまたま富士見に住むこととなりました。元々移住願望があったわけでは ないですが都会の喧騒の中サラリーマンをやる未来に嫌悪感を抱いていたので自然と触れ合いながらエネルギーに働ける仕事がしたいと思い20代で富 士見に移住しました。その後妻と出会い(妻も移住者)現在は個人農家をしています 森の家ぼっちに子供達は通わせました。正直いうと子供の教育現場について興味はありませんでした、私自身、私立のどこにでもあるような幼稚園でしたし公 立小学校で、一般的と思われる公教育を受けていたので差はないと思っていました。 結論から言うと子供をこの自然に触れさせながら五感をフルに使えて、走り回り飛び回り、泥だらけになって過ごせる環境は現代においては非常に貴重な教育 だと感じました。子供達が小学校に上がった時に長野の信州やまほいくの素晴らしさに改め感じました、公教育が決して悪いと言いたいのではなく多様な教 育環境を受けることができる選択肢の多さが良いなど。小学校に上がってからは子供自身も戸惑いがありましたが、さほど問題には感じておりません どちらかというと保護者側での壁を感じました。元から住んでいた方と移住組との交流の少なさにより保護者同士のコミュニケーションが少ない。結果として子 供に負荷がかかるシーンがある。 農家だからより強く感じるのかもしれませんが、地域とのつながりを教育の現場で保護者も巻き込んで地域全体での教育をできるようにしていけたらと個人 的には思います 子供の教育環境は非常に高いです。子供が親世代になれば富士見で子育てがしたいと思えるぐらいの良い環境だと思います 唯一気になるのは子供の通学に関してです。小学校中学校で親が送り迎えしている家庭が多く負担に感じます。スクールバス等があれば助かります
29	上葛木	40代	町の真ん中で勝手に案を決められ、話される進め方に反対。各小学校区単位で住民主導の検討会を開き、小学校区単位で住民投票で決めてほしい。その結 果なら、学校を減らす話であってもまだ受け入れられる。検討会は全部記録、公開し、後世に、歴史に成否を判断できるようにしないとイケない。
28	池袋	10代	さかいしょうにかよう9さいです。さかいしょうがっこうをなくさないでください。パパとママはさかいしょうがなくなるなら、ふじみまちからひっこすといっ てました。
27	乙事	70代	今のままの学校、保育園体制がよい。今の町の議論はごく一部の表面の話しかしていない。気候変動で水害、土砂崩れが今後増えていく。その際、避難できる 場所を減らさない方が絶対に助かる命が多い。日ごろ、子どもの通わない園、学校が有事の際に円滑で万全な避難場所になるとは思えない。学校を減らすと いうことは、その地域の住民は災害で死んでもいいと言っているのか？ 耐震は大事だが、富士見では大きな地震よりも水害、土砂崩れ、山火事といった小さく局所的な災害の方が頻度が多い。そうした際にみんなが普段から使っ ている保育園、学校は頼みの綱。目の前のお金の話だけで決めちゃいけない。
26	西山	30代	D案がよい。地方は画一化し、個性が失われたことで衰退したという意見は地域創生の専門家でも指摘していること。複数校を残しあ方が良い。町の中央に集 中といったことはすべきでない
25	葛窪	40代	小規模特任校を指定し、移住者を増やし、特徴的な教育を住民と一緒に作っている伊那西を見学したことがあるが、そうした例から富士見に取り入れられるこ とはないか。コストだけの話ではない。議論が矮小化されていないか。

24	高森	40代	金額を示して、メリットデメリットの情報を詳細に出さずに案を提示する形では、スーパーで安い輸入肉を買うように、金額だけで意思決定する構造に誘導となってしまうのか。定量的、定性的に根拠を示し、イデオロギーではなく、冷静に書く案を評価できるようにしてほしい。
23	境	30代	学校、保育園は教育もちろんながら、地域にとっての存在、意義の大きさがある。ハードインフラと人件費だけで考えるのではなく、地域全体への効果をしっかりと評価すべき。インパクト評価をおこない、検討をすべきではないか。
22	本郷地区	20代	富士見町で結婚、子育てしたいと思っています。富士見町は公立園の文化が強くあり、どこも一緒という感じがしています。それ自体悪いことではありませんが、これからの時代を考えた時に、特徴ある(今の時代らしい)保育園があるのいいのではと思います。ぼっちという園に興味があります。都会では、外遊びができないと同級生から聞いています。富士見町は自然が豊かでここで大きくなれたことは自分の財産だと思っています。自分たちが育ったように、富士見町ならではの子育てができるなら、そして、仕事が確保できるなら、富士見町に帰ってきたいと思います。
21	高森	40代	1小学校への統合の案は、児童数が1+1+1が3未満になるような結果になると危惧します。資料にもあるように、一極集中リスク、通学距離の長距離化それ自体が富士見町の外部から見た時の魅力度低下に直結すると(自分も移住者視点で見ると)感じますし、地方に住んでまで電車・バス・自家用車が通学に必須という環境は忌避されると思います。 近年の出生数の減少、移住による児童の増加ペースの鈍化は著しく、大きな懸念です。しかし、他の自治体(の成功例)を見ると、減りはしてもその後の打ち手次第では再び増えることもあります。ですので、減少した現状に合わせた町有施設の削減やコストのスリム化は必須ですが、同時に将来にわたり富士見に住みたいとより多くの人が思えるような学校環境を保つこともとても大事だと思います。 境エリアは富士見駅方面とは同じ町内でも違った雰囲気・景観・暮らしの特色があり、特に都市部からの移住検討者からすると「街」感が少なく田園風景とコミュニティがあることは大きな魅力だと思います(現実的な距離感にある防災拠点が存在することも町がしっかりと手を打っていることへの信頼につながります)。また、富士見駅よりも東京方面へのアクセスが良い小淵沢駅・小淵沢インターが近いことが一つの大きな差異化要因になります(というより、既になっています)。そのため、その地域に徒歩通学が可能な小学校がなくなることになった場合、富士見町の境地区への移住を検討していた人がそのまま自然に町内の中心方向に流れるかという点必ずしもそうはならず、むしろ富士見町自体がスルーされる方向になる可能性も大いにあると思います。 少しテーマがずれますが、長期的には富士見駅発着のあずき減便リスクも視野に入れるべきだと思っています。仮にそうなった場合には、首都圏へのアクセスという意味での富士見町の魅力は大幅に低下します。その時に小淵沢からのアクセスが便利な境エリアが保育園・小学校含めたインフラがしっかりと整った一つの地域として存続していることは、町全体の将来見通しを考える上でも重要なリスク分散のポイントになると思います。(ちなみにリニア新幹線へは一切の期待を持たないことが賢明だと思います。)
20	境地区	50代	その年によって人数のばらつきはあるものの、境小学校で言うならば移住者も毎年あり子供の数としては安定していると想う。 出生率が下がっているとそこを問題視するよりも、小学校には現実子ども達が引っ越してきたりと人数は変わらず存続できていると感じる。今後小規模な学校の魅力を求めて来る移住者は多いと想うので、そちらに力を入れていけば他県から人は集まってくるだろう。 1クラスに担任が1人という今迄のやり方では、子供と先生の愛称もありどちらにもストレスが増える→不登校が増える 人件費をかけて、外部からの講師を呼ぶ等して先生の負担を減らす。 長野でしか味わえない自然の中での教育等今迄の教室内で多くの時間を過ごすやり方から、体験型を中心に子ども達のやる気をあげていく。 そういった教育をしていく為には、 何より先生方には心のゆとりがもてる現場(今はやることが多すぎて忙しそう)で楽しんで学校に来られる居心地の良い職員室作り等先生をまずは元気にしてあげて欲しい。 そもそも国から出される毎年のカリキュラムをこなそうとしていたら、学校の先生はそれをこなす為余裕はないのだろうと感じる。教育のしぐみにゆとりを作り、これからの子ども達に必要な学びを見直してもらえる日が来ることを願います。 家庭ではお母さんが笑っていれば子供は安心するように、、、学校では先生達が笑っていられるように！

19	落合	30代	現在、3歳と0歳の子どもを育てています。これから子どもたちが富士見町の学校に通う親として、率直な意見を述べさせていただきます。 私は、今回の案の中では**「案D：3小学校・3園複合化(長寿命化)」を基本として検討していただきたい**と思っています。 最初は、現在の学校の老朽化を考えると不安もありました。しかし、資料を拝見し、3小学校はいずれも長寿命化が可能であり、建物の骨組みを活かして30年以上使えるよう改修できることを知りました。 私が望んでいるのは、「今の古い校舎をそのまま残してほしい」ということではありません。 富士見・本郷・境、それぞれの地域に、子どもたちが安心して通える、安全で魅力のある学校を残してほしいという思いです。 学校は勉強する場所だけではなく、地域のつながりを育て、子どもたちを地域で見守る場所でもあります。また、災害時の避難拠点としても大切な役割があると思います。 一方で、少子化によって小規模校の課題があることも理解しています。 だからこそ、3校を残すだけではなく、3校合同の授業や交流、ICTの活用、教員同士の連携など、「地域には3校、教育は一体的に」という仕組みを検討していただきたいです。 私自身、10年後、20年後の富士見町がどうなっているのかは分かりません。 だからこそ、今の子どもたちだけでなく、将来の子どもたちにも選択肢を残せるよう、児童数や地域の状況を見ながら、将来的に柔軟に見直せる仕組みにしたいです。 「古い学校を残してほしい」のではなく、「子どもたちが富士見町で育ってよかったと思える学校を、地域の中に残してほしい」。 子育てをしている親として、そう願っています。
18	落合	30代	具体的には、3小学校をそれぞれ独立した学校として運営するだけではなく、 * 3校合同での授業や交流学习 * ICTを活用した合同授業 * 高学年の合同活動・クラブ活動 * 音楽・体育・英語などの合同授業 * 教員の学校間交流・相互連携 * 中学校との小中一貫した教育 * 3校共通の教育カリキュラム などを積極的に進め、**「施設は3校、教育は一体化」**という仕組みを作っていただきたいです。 これにより、各地域の小学校を残しながら、小規模校で課題となる「児童同士の人間関係の少なさ」「クラス規模」「教員配置」などを補うことができると考えます。 さらに、今後の人口・児童数の減少が予測を上回った場合に備え、 「児童数が一定水準を下回った場合には、学校配置を改めて検討する」といった将来的な見直し基準もあらかじめ設定しておくことを提案します。 そうすることで、最初から学校を1校に集約してしまうのではなく、富士見町の人口動態を見ながら柔軟に判断できる、後戻りのできる政策にできると思います。 富士見町は現在、人口減少への対応だけでなく、子育て世代の定住・移住を促進することも重要な課題だと思います。 その中で、「地域ごとに学校があり、地域全体で子どもを育てることができる町」という環境は、富士見町の大きな魅力になり得ます。 以上のことから、 「案Dを基本方針とし、3小学校・3園の複合化による施設の効率化を進めながら、3小学校を一体的に運営する教育システムを構築する」ことを強く要望します。 単純に「学校を残す・減らす」という二択ではなく、財政の持続可能性と、子どもたちの教育環境、地域コミュニティの維持を両立させる富士見町独自のモデルを目指していただきたいです。 「将来の子どもたちに、過大な財政負担を残さないことも大切ですが、同時に、現在の子どもたちから地域の学校まで奪わないことも、私たち大人の責任だと考えます。」

18	落合	30代	富士見町が検討している学校・保育園のあり方について、私は**「案D：3小学校・3園複合化(長寿命化)」を基本とした方向性**を支持します。今回示されている各案を比較すると、案Dは、地域の教育環境を維持しながら、将来的な公共施設の維持管理費を抑えるという点で、富士見町にとって非常にバランスの良い案だと考えます。 特に、2025年から2045年までの20年間の試算では、 * 案D：約95.7億円 * 案E：約108億円 となっており、案Dの方が約12.3億円少ないという大きな差があります。 一方、案Eは1小学校への集約によって維持管理費を抑えられるというメリットがあります。しかし、初期投資については、 * 案D：約7.5億円 * 案E：約23.2億円 と、案Eの方が約15.7億円高くなっています。 20年間の維持管理費だけを見ると案Eの方が約3.6億円安くなりますが、初期投資の差を考えると、20年間という計画期間では案Dの方が約12億円以上有利です。 また、案Eでは小学校が1校に集約されることで、通学距離の増加やスクールバスへの依存、地域コミュニティの希薄化なども懸念されます。 富士見町では、各地域に小学校が存在することが、単に「教育施設がある」というだけではなく、地域のつながりや子どもたちの居場所、地域住民が子どもを見守る環境を維持する役割も果たしていると考えます。 そのため、私は、「学校を3校残す」という案Dを基本としながら、案Eの教育面のメリットを取り入れるという方向が、富士見町には最も適していると考えます。
17	高森	40代	保育園、小学校の合併
16	富士見	30代	小学校の統合を本格的に議論する必要がある。1クラスや少人数クラスでの弊害も多く聞く(いい面、悪い面)ともに。 さらに校舎の老朽化問題やPTAの在り方も多くあり。 富士見小学校では、週末に学校の掃除や草刈り、ストーブの設置まで保護者がやっている。草刈りや掃除までなら素人でもいいと思うが、ストーブの設置や高所の窓拭きなど怪我のリスクや危機感をいつも感じている。さらに設置の仕方によっては、子ども達にも怪我をさせてしまう可能性も考える。 万が一の時の保証は学校なのか？町なのか？さらにお金を出し合い、プロに仕事ををお願いする方向を考えることはできないのか。 全国的にもPTA廃止になってきている 富士見町も昔からのやり方にとらわれず真剣に未来のことを考えてほしい。 きっと、今の情報は移住者の足枷になっていると思っている、
15	富士見区	60代	将来に向けて富士見町の子供たちの数が減っていくので、富士見町オリジナル保小中一貫校を作ればよいと思う。縦割りで人間関係を築いていけるのではないかと思う。
14	富里	40代	一定の統廃合による、教員、保育士の確保は必要と考えます。 極端な少人数学級による、周辺地域との、一般的な教育格差は避けて欲しい。 空き施設が発生する場合は、倉庫にしたりせず、地域の拠点として活用するなど、外部管理者を使うなど、施設の活用検討は必要。
13	高森	70代	私はD案に賛成です。なぜなら、一貫教育が出来ます。その中でも、英語教育をして、小学校卒業時には、一般会話が出来るレベル。三校による英語の弁論大会も良いかな。当然中学校はそれを高める。英語教育の富士見町を全国に轟かす。又校庭は芝生とする。子供の環境が良ければ、若い移住者も確実に増える。検討をお願い致します。
12	田端	40代	特にありません

11	富士見	50代	学校の「廃校」というのは、地域衰退の象徴だと思う。極力避けるべき。移住者を増やしたいという希望もあるのに、町内のあちこちに廃校が建っていたら、私だったら「この地域は大丈夫なのだろうか？」と思う。まあ、富士見町に移住しようと思う人間は、そんな光景も田舎の景色の一部として大して驚くことはないだろうが。 学校・保育園問題については、上記の考えも踏まえて支持するのは「3小学校3園複合化」(案D・選択肢6)になる。役場としてもこれが最も町財政に負担が掛からないと試算されているのであれば、こんな大々的に町民に意見を募集なんてするほどのことでもないのでは？ 保育園については、利用者の少ない「落合保育園」「境保育園」は廃園止む無しだろう。 落合・境地区に保育園が無くなるということになるが、両園を利用していた世帯が本郷や西山保育園まで送迎に行かなければならなくなるといっても、その増加負担は、車で片道10分も掛からない程度のものだ。 それよりも、「5年後に町の貯金が底をつく」ということへの対応の方が遥かに重要なのでは？ 5年後に底をついて、どうやって町政を維持するのか？ 箱物を減らすという政策も全く進んでいないようだし、新町長はこの1年間に自身の理念に沿った大きな仕事を何か実現したのか？ はっきり言って、誰が町長になっても同じで、毎日雑務をこなしているだけなのでは？ 高い理念を持っていても、実際はその雑務で手一杯なのでは？ 町のサイトも定期的に毎年定型のよく分からない報告やPDFファイルを載せているばかりで何も目新しいことが無いし、「5年後に町の貯金が底をつく」と声高に言っている割には、役場に行っても覇気や必死さのようなものが全く感じられない。子供たちにどれだけ負担を背負わせる気なのか、本気で考えてますか？ 今後積みあがっていく負債について、どう考えているんですか？ この負債、返す見込みが無いんですよね？ 破綻まっしぐらということですよ？ 本気で町のこと考えてますか？ 「5年後に町の貯金が底をつく」とは発信しているけど、実際のところ、諦めてませんか？ 底をつく前になんとかしようと本当に思っていますか？ 現町長の最大の仕事は、「5年後に町の貯金が底をつく」という問題を回避(せめて延命)させることなのでは？ 5年後に町の貯金が底をつく → 町人口は減る一方 → 負債雪だるま = 学校・保育園問題よりも真っ先にやることがあるんじゃないの？ これら疑問符が付いている点について、全て回答して頂きたいくらいです。 (私？ もちろん考えているけど役場の人間じゃないんで実行出来ません。それに、予算も創出する気ないみたいだし、何も出来ませんよ) 本心は上記の通りだが、本題は「富士見町立学校・保育園の今後のあり方について」なので、あらためてそちらに目を向けると、児童数の多い「富士見小学校」は、当然改修して維持。しかし「境小学校」については耐用年数が来たタイミングで廃校とし、「本郷小学校」と統合するべきだろう。2043年頃の児童数を考えれば、止む無し。 「境小学校」は、周辺世帯の避難施設としてはもちろん、廃校活用を模索するのも良いと思うが、残すには改修しなければならないし、その後の維持費も掛かるので解体して、「避難広場」(仮設テント・仮設住宅設置用スペース)として跡地だけはきれいにキープしておくのが良いかもだ。 まとめると、現在提示されている案に沿って言えば「3小学校3園複合化」(案D・選択肢6)を支持だが、将来的には「2小学校長寿命化3園複合化」にまとめるべきと考える。(今後大きな変化の波が来ない限り、嫌でもそうした議論になっていくだろう) 「1小中学校3保育園」(選択肢7)も、小学生が入ってくる分、増築をするのであればまだ検討の余地はあると思うが、その場合はグラウンドが小さくなるのだろう。その点は何か考えているのか。 また、上記の「境小学校」の点と同様で、避難所として残すための改修費とその後の維持費を商業的な廃校活用をするなどしてカバー出来ないようであれば、解体してしまった方が良いだろう。いつ使うかも分からない施設として年間800万円掛けて維持するなんて、馬鹿馬鹿しい。だったら万が一の際に役立つ世帯用テントなどを備蓄する方がよっぽど良い。 また、「1小中学校3保育園」(選択肢7)は、本郷小学校の児童数もさらに減り、中学校を増築しなくても賄えてしまうほど子供の数が減ってしまった時に検討すれば良いのでは、とも思う。このまま子供の数が減り続けるのなら、増築分もいずれ無駄(町財政負担)になりますよ。
10	信濃境	60代	テクノ街道沿いへの企業誘致を進めていくべき。よって雇用、移住が増える。3小学校が1小学校になる事は現実的にはあると思うが…それぞれ防災拠点としては必要はある。

9	机	50代	落合小が閉校したとき、娘は富士見小へ転入した形になりました。小学校6年生でした。不安でしたが、子供はすぐに馴染みました。南中学校が閉校したとき、息子は新しい富士見中学校に登校する事になりました。2年生でした。不安は無かったです。違いは明確です。 今ある学校に転入なのか、新しい学校に登校するのかです。小学校は、今あるルール、校則、保護者会などに参加しないといけないのは、親として馴染みにくく、運動会も、発表会等も落ち着かず、楽しめませんでした。一方、中学校は学校名、校歌、校則、保護者会、制服など、全く新しいもの。不安も無く、参加しやすく、安心と楽しみでした。親も子供もみんな同じ立場でスタート出来るのが良かったです。 1小学校新設に賛成です。過去の富士見中学校新設のようになる事に賛成です。 地域から離れることに不安で、反対するのは保護者の意見だと思います。子供たちはすぐ馴染み、部活動も行事も、少人数で出来なかった事などできる事も増えて、友達もたくさん出来て、良かったと思っています。 地域の行事を新学校に取り入れるなど、やり方はあると思います。 他の心配は通学路でしたが、歩くのは困難な地域にとってはスクールバスは助かりました。今中学生と同様なスクールバス体制にする事が可能であるはずで す。小学校新設も出来れば、小中一貫校希望。 小学校、中学校か同じところにあったら、一緒に迎えにも行かれるし、行事も行きやすいと何度も思いました。また、学校の様子も兄弟でわかったりすれば、親に話せない、知らない事も助けてあげれるのかなと思います。小学校、中学校の交流もしやすいでしょう。 せめて、小学校、中学校が近ければとも思います。 今、川岸の学校がとても気になりますね。 富士見小学校は、在校生に対して狭くて、発表会も日を分けて、ぎゅうぎゅうの中で観たし、使い続けるには、使いにくいと感じてました。場所も少し離れており、中学校付近が良いなと思っています。 富士見高校の統合された後、使わないとなれば良い場所だなあとと思います。 今、共働きの多い時代。 働きやすく、家庭も大事に。両立出来るのは、学校の在り方は重要です。 次世代に負担かけないマネジメントよりも、住みやすい富士見町を実現できるなら、高コストも理解できます。 防災施設についても、今の災害は変化して来ています。コストをかけても、災害時に有効活用できる施設を考えるのも必要になる。 学校解体、一部解体、災害施設建設も考えてもいいかなと思います。 一校にすれば、町内どこに住んでも通学に不安が無い。学校選びも無い。現状は、移住者も永住を考える人も学校の事で絶対悩むと思います。それが無くなり、町内住みたい場所に住める。富士見町に戻って来るUターンも増えるかもしれない。 こんな、大規模な改革は、コストも、時間もかかります。 とにかく、富士見に住みたい、これがあるから、富士見から離れたくないんだよな、移住したいんだよなと思ってもらわないと、ですよ。ね。 富士見町が変わる時。自分の経験が参考になればと思い書かせていただきました。
---	---	-----	---

8	落合	30代	各保育園の人数がだいぶ減っていて、先生を始め保護者の負担もかなり大きくなっています。5つも保育園は要らないと感じているので、2か3に合併するべきです。 小学校についても、堺保育園のように小規模の良さがという町長さんのご意見もわかりますが、流石に少人数すぎて、子ども達も可哀想です。残したいのであれば、境小学校学区を広げ富士見小学校を残し、本郷小学校を廃校にするか、境小学校を廃校にし、本郷小学校にまとめるか、小学校自体も2つにまとめるべきと考えます。 役員の不平等さに凄く不信感を抱いています。 保育園、小学校両共に、数を減らし遠い地域からの登校にはスクールバスを出すなど工夫も必要と思います。 また、近年の学力低下が凄く気になっております。やる気がない子とある子の差が大きいと思いますが、クラスを3つに分けるなどし、進級コース、標準コース、のんびりコースなどレベルに分けていただかないと、やる気がある子もない子に流され結果として全体の学力低下に基づいていると思います。自体的に先生方もやりづらいとは思いますが、子供達の大事な未来のために、今のままでは良くないという事を深刻に考えていただければと思っております。 よろしくお願い致します？
7	信濃境	40代	境小学校に子供が通学しております。境小学校の自然豊かで伸びやかな教育環境は素晴らしいので、ぜひ存続していただきたいと切に思います。私自身移住者ですが、境地区には移住者が多いこともあり、移住者同士の交流がたくさんあります。また、地域の方々も子供たちに優しく接してくださり、境地区での子育てはとてもしやすいです。子供たちも境地区が大好きです。ぜひ、統廃合してしまうのではなく、境小学校の良さを活かしていけるような施策を考えていただければと思います。
6	葛窪	50代	子どもが少なくなってきたので、町内の保育園に通う園児数も少なくなってきました。それに伴い、保育士が余っている今の状況を町はどう考えているのか、詳しく、早急に知りたいです。(子ども達が育っていく中で、保育士が多ければよいというものでもないし、人件費もとてもかかっていると思うので)
5	新田	40代	子どもにとってどんな教育環境がいいのか。自分の子どもを見ていると、多すぎず少なすぎず程度の人数(20～30人程度)のクラスで学ばせたいです。ある程度人数がいないと体育や音楽は難しくなるでしょうし、クラブ活動も選べません。少ない人数の中で友達関係に苦労したら逃げ場がありません。中学校に行ったときには友達作りで苦労するでしょう。ここまで子どもが減っている中、小学校を3つも残せば5人にも満たないクラスのある学校ができてしまいそうで心配です。小学校は1つでいいんじゃないでしょうか。ただ、定員ギリギリの人数を1クラスに詰め込むのはやめてもらいたいです。子どもたちが友達と切磋琢磨し、のびのびと過ごせ、かつ、支援級や不登校の子どもたちにも対応できる学校づくりを是非お願いします。
4	落合	60代	学校や保育園が子供の成長のための場であるなら、ある程度の人数がいて多様性のある中で育てるべきだと思います。以前聞いた話では、富士見の子供の人数はいずれ、富士見中学校に収まる人数になるとか！？だとしたら、登校の方法は考えるとして、小中一貫校での教育が望ましいと思います。ここで新たに小学校をいくつも建設したり、残して、将来の少人数の子供たちが親になった時の負担を増やすべきでは無いと思います。 建物を壊すコストは一時的なもので、その先の維持管理費も検討する必要もあるのではないのでしょうか。古い建物を不必要に残す考え方は良く無いと思います。
3	若宮	40代	少子化に伴い、施設の縮小が課題となっていますが、施設の維持管理費、教員や職員の人手不足などを考えると、学校の統合はやむを得ないと思います。今後、毎年30人の出生数を予想すると、未満児保育を含む保育園、小学校、中学校を一つの施設でまかなうのがいいと思います。バス通学や電車通学も致し方ないと思います。その分、子供が通うのが楽しくなるような次世代型の新しい学校校舎、学校教育になることも必要になると思います。

2	富里	10代	子どもが僕の学年の1/3くらいになってる中で3校5園も残す理由がないと思います。人件費も維持費も高いのでなんなら1校1園でいいと思います。 僕たちにとって学校で一番楽しいことは友達と遊んでいることです。僕は今、中学生ですが友達はだいたい小学校から同じ人たちです。僕は富士見小だから知り合いが多くて困りませんが、境小の人は同じクラスに知り合いが少なくて寂しいと思います。 だから僕は学校も保育園も少なくていいと思います。
1	塚平	40代	私は、選択肢にある案Bまたは案Eが良いと思いました。少子化は避けて通れず、ここ最近の富士見町のトレンドからわかる通り、地方はより顕著に減っていくのは間違いないと感じています。移住促進するにも日本全国で子供は減っているので、パイの取り合いにも限界があると思います。子育て世代としての個人的意見としては、様々な感性を持った友達との学校生活、スポーツ少年団、諸活動など、色々な体験をさせたいと考えています。それが将来社会に出た時に大事だと思うからです。そういった考えですので、学校の規模はある程度必要だと思いますので、案B,Eを提案しました。統合となれば、廃校近くの方から反対意見など難しい問題もありますが、20年30年先を考えるのであれば、コンパクトシティ化が必要だと思います。それには富士見駅や中学校近くの宅地整備も必要だと思います。最後に、ここ最近の町の行政は、富士見町の将来を真剣に考えていると感じています。非常に難しい問題ではありますが、引き続き頑張ってください。応援しています。